

インターメディアエーター講座

— 「あいだ」をめぐる知と方法 —



・危機と葛藤に直面する現代社会にあって、多様なアクターが連携して、いい結果を出すことは分野を超えたテーマになりました。

・この時、たがいの違いを十分に認めながら、創造的なチームやグループを形成し、より望ましい関係変化を生み出すのが「インターメディアエーター (intermediator)」です。

・その役割は、①多様性の中の対話を通じて、発見的な〈協働の場〉をつくりだすこと。とりわけ「人間と機械と自然の協働」が動的に成立することを目指すのですが、その生成的な過程で、②かかわりあう人々の人間的变化（成長、成熟、人間回復）が生じること、そして③非連続変化（イノベーション）が自生していく環境をつくることも重要な役割です。

・インターメディアエーターとは、リーダーのことではありませんから、本プログラムは「リーダー不要論」から始まります。ほかに、既成概念がゆらぐ話題をご案内することになります。そもそもこの世界が境界できて以上、複雑性を媒介するための新しい認識と技法がなければ、どんな“才能”も“多数多様体”も機能することはありません。

・時代と場の停滞を打ち破り、次をつくる方々にご参加いただきたいと思っています。

プログラム 5/29 : 13:30 ~ 15:30 | 6/14, 6/26 : 10:00 ~ 17:00 (ランチをはさみます)

	Intro	5/29
§ 1 「インターメディアエーター」とは	Wed.	
§ 2 マインドセット (1) 3分法思考と多元的思考		
§ 3 マインドセット (2) 多様性・複雑性許容と対話能力	前半 6/14	Fri.
§ 4 マインドセット (3) エンゲイジメント能力と4つの 'active'		
§ 5 マインドセット (4) エンパシー能力とエンパワリング能力	後半 6/26	Wed.
§ 6 マインドセット (5) 物語り能力 (narrative competence)		
§ 7 CODA : 「開かれた対話と創造の場」へ		

リーダーこそが、指示待ち人間を再生産する

●講師

設楽 剛 (Go Shidara, Ph.D.)

設楽剛事務所 代表

慶應義塾大学 博士 [政策・メディア]

●慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修了後、シンクタンクにて、ビジネス・フィロソフィーの変革を推進。LINE (株)の母体企業ハンゲームジャパン(株)の創設メンバー、初代チーフ・マーケティング・オフィサー (CMO) 兼 副社長を経て、設楽剛事務所を設立。今後の大きな方向をイメージできるよう、先見的対話のプロセスを重視。生命論を基調に、人間と環境にとって重要な認識枠組み、思考、語彙の導入と形成に取り組んでいる。存在のドラマを描くこと (Narrative による Worldmaking) が中心。

●論文 (査読付) に、「物語ブランディングの政策効果」(政策情報学会)、「ブランディングにおける物語効果」(情報文化学会)。●公式サイト : archipelagos.jp



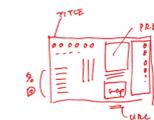
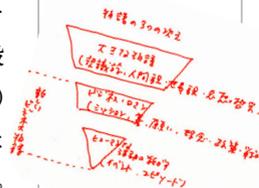
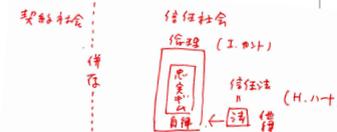
会場 公益財団法人 国際文化会館

106-0032 東京都港区六本木 5-11-16

電話 : 03 - 3470 - 4611 URL : i-house.or.jp

●お問い合わせ・お申込み : ウェブよりご連絡ください

intermediator.jp/contact



もはや革新的な物語を語るだけでは、不十分です。あらゆる物語の革新を、物語をもって革新を。